

エビスマリン (長崎市)

水流起こし水きれいに

「ドロやアオコで汚れた水を「かき混ぜてきれいにする技術」で生き返らせている。化学薬品は使わず、水中に流れを起して酸素を行き渡らせることで浄化する。

アステカ時代の湖の一部を残すメキシコ・ソチミルコの運河や京都の平等院鳳凰堂といった世界遺産、昭和初期から東京都民の水がめになってる村山下貯水池、茨城県の霞ヶ浦など、装置はおよそ100カ所で実績を上げた。

「ドロの沈殿やアオコの異常発生は、水底にたまる葉や

土、動物の死骸を分解するバクテリアに酸素が回らないことが原因という。従来、これを取り除くには化学薬品の散布や水底を掘り取る大がかりな工事が一般的だった。

これに対し、同社の装置「ジェット・ストリーマー」や「アオコキラ」などは、酸素やオゾンを含ませた大量の

水を水底から送り、バクテリアの分解力を回復させる。モニターは水面に浮かべるため、修理しやすいのも特長だ。「従来の方が投薬や手術をする西洋医学だとしたら、うちの装置は自然治癒力を高める東洋医学です」と寺井良治社長(50)は言う。

ももとの技術を開発したマリン技研(長崎市)が2009年、経営難に陥り、東京で商社を経営する寺井社長が事業を引き継いで営業販売を立て直した。「(1980年代に大ヒットしたヘッドホンステレオ)ソニーのウォークマンに匹敵すると思ってる」。世界で勝負できる長崎発の技術として、来年度は10億円の売り上げを目指す。

(花房喜貞子)



超音波を当ててアオコを死滅させ、底に沈める実験

創業 2012年6月
代表者 寺井良治
従業員 17人
売上高 設立直後のため決算未発表

寺井良治社長を先頭に処理装置を囲む社員。アオコに悩む池や堀に光明をもたらした長崎市